

1. ナカメ未来ビジョンとは

- まちの変化や公民連携まちづくりの進展を踏まえ、将来に向けたまちづくりの方針と具体的な取組を明確にするとともに、多様な人材が参画・連携して取り組むことを目的として、未来ビジョンを策定します。
- 「ナカメ未来ビジョン」は、ナカメエリアマネジメントと目黒区を中心として多様な人材が参加するエリアプラットフォーム(ナカメをデザインする会議。)が策定します。
- ビジョンの実施期間は約20年間で想定する将来構想とします。

2. 将来目指すナカメの姿

「中目黒、つながりが咲くまち」

新しさやおしゃれさを感じる中に、どこかゆとりや落ち着きのある雰囲気をもつナカメのまちで、住む人、働く人、訪れる人が地域内外の様々な人と出会い、交流し、人の優しさや温かさに触れ、日々の暮らしの中で楽しみや喜びなどを感じられる多様な魅力が調和する。

そんな日常の実現に向けて、ナカメが誇る独自の資源を活かし、多様性あふれる文化を発展させ、様々な人がつながり、幸せな交流や創造が咲くナカメをつくっていきます。



3. まちづくりの目標と方針

【歩行環境・動線】

1 「ウォーカブルネットワーク」

歩いて巡りたくなるようにナカメ内外の魅力をつなぐ

散歩などまち歩きを楽しめるナカメの魅力をさらに引き出し、エリア内のまちなか拠点や隣接する池尻大橋や代官山、祐天寺等の駅周辺スポットを、歩いて巡りたくなるようにするために、「ウォーカブルネットワーク」の構築を目指します。

- 方針1 歩行者ファーストのゆとりのある環境の創出
- 方針2 歩行空間の魅力向上
- 方針3 憩い・くつろげる環境の確保
- 方針4 周辺エリアとのつながりの強化



【場・空間】

2 「まちなか拠点」

ひとやまちの魅力に出会える拠点をつくる

ひとや自然、文化などのナカメにある様々な魅力に出会えることで、住む人・働く人・訪れる人の日常を豊かにし、「住みたい」、「住み続けたい」、「働きたい」、「訪れたい」と思えるナカメにするために、エリア内の空間を活用して、人々の滞留や回遊、憩い、交流を生み出す「まちなか拠点」づくりを目指します。

- 方針1 駅周辺での滞留・回遊を生み出す場の創出
- 方針2 魅力あふれる水辺の整備と活用
- 方針3 民間のオープンスペース等の憩いや交流の場としての活用
- 方針4 公園の新たな憩い・交流・回遊を生み出す場としての充実
- 方針5 個性的な新産業を創出する拠点の形成



3 「インクルーシブなまち」

【環境、安全・安心】

ひとにやさしく安心できるまちをつくる

ナカメは、都市としての活力と落ち着きの共存がまちの魅力となっており、子ども、若者、高齢者、障がい者、外国人など多様な人々が住み、働き、訪れています。そうした多様な人々が関わるまちのバランスを保ち、魅力を維持・向上するため、ひとにやさしく、安心でき、多様性を認め合いながらすべてを包み込むとともに、魅力ある個性を放つことができる「インクルーシブなまち」を目指します。

- 方針1 まちなかの身近なみどりの保全と充実
- 方針2 桜開花時期におけるサステナブルツーリズムの実現
- 方針3 落ち着きのある景観や環境の保全
- 方針4 災害時の対策・受入態勢の強化
- 方針5 ナカメで暮らす人々に優しく安心して暮らせる環境の充実
- 方針6 多様な人々が安心して楽しく過ごせる環境の充実



4 「クリエイティブなまち」

【産業、文化、コミュニティ】

多様な活動とつながりから活力が生まれるまちをつくる

日々の暮らしに寄り添う店舗、先進的な文化を発信する店舗や施設が共存し、多様な人々が交流する機会のあるナカメの特徴を魅力として維持・向上するため、「これまで」を継承し、「これから」を創出することで、多様な活動とつながりから活力が生まれる「クリエイティブなまち」を目指します。

- 方針1 店舗・施設の集積・定着の誘導
- 方針2 ナカメの資源を活かした商品・サービス開発の促進
- 方針3 まちなかで文化・芸術の発信
- 方針4 文化や芸術を学び・体験できる場の創出
- 方針5 世代を超えて多様な人々が出会い・つながる場や機会の創出
- 方針6 個性的な新産業や多様な働き方・チャレンジできる環境の創出



5 「情報や技術が活きるまち」

【情報、デジタル】

暮らしを豊かにする情報発信やデジタル技術活用を展開する

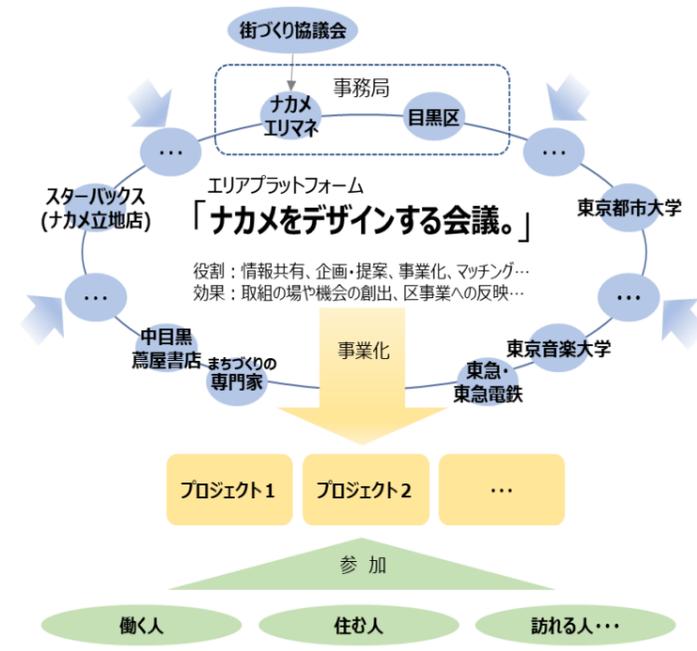
住む人・働く人・訪れる人が、まちの魅力や必要な情報が入手できるとともに、様々な人と活動したり、ナカメで過ごすうえで便利になるサービスを利用できるようにするため、「情報発信やデジタル技術が活きるまち」を目指します。

- 方針1 駅前エリアでの情報発信機能の強化
- 方針2 まちの魅力を発信してつながりを生むメディアづくり
- 方針3 まちづくり活動にデジタル技術の活用
- 方針4 まちなかでデジタル技術を実装できる環境づくり



4. 推進体制と今後の展開

- ナカメエリアマネジメントと目黒区が中心となって、エリアプラットフォームである「ナカメをデザインする会議。」を運営し、活動状況の定期的な情報共有と進行管理を行いながら、メンバー間で関連する取組の提案・アイデア出し・企画・マッチングを行い、公民連携によるプロジェクトの事業化、区事業への反映を図ります。
- さらに、推進力の確保・向上を目指し、ナカメエリアマネジメントの体制強化のため、「ナカメをデザインする会議。」の運営を通じて会員・パートナーの加入促進や、都市再生推進法人の指定を目指します。



推進策1
定期的な情報共有と進行管理
ナカメエリアマネジメントと目黒区が中心となって「ナカメ未来ビジョン」の推進に資する活動の定期的な情報共有と進行管理を行います。

推進策2
メンバー間での情報発信・連携
「ナカメをデザインする会議。」メンバー等が、まちづくりに資する取組を「考えたい・アイデアをもらいたい・メンバーを募集したい」時に、SNS・チャット等のデジタルツールも活用しながら発信・連携します。

推進策3
アイデアワークショップ・プロジェクトへの参加機会の創出
推進策2で掲げた、メンバー間での情報発信・連携を通じて、プロジェクト実施に向けて深度化を図る必要がある場合には、協議の場やワークショップを開催しながら、広く参加メンバーを募ります。